

2025年度

入学試験問題

課題作文 I

(45分)

受験上の注意

1. 試験は監督者の「解答始め」の合図で始めます。合図があるまで問題用紙を開かないでください。「始め」の合図のあとに、まず机の上にある、QRコードの入った名前シールを1枚、解答用紙に貼ってください。
2. 試験は監督者の「解答やめ」の合図で終わります。「やめ」の合図があったら、筆記用具を置き、問題用紙を閉じ、その上に解答用紙を裏返しにして置ってください。
3. 問題は ① ~ ②まであります。
4. 試験中は次のようにしてください。
 - ① 机の上には、鉛筆・消しゴム・受験票・写真票・時計などの指定されたもの以外は、置かないでください。
 - ② 解答は必ず解答用紙の定められた場所に記入してください。汚したり破いたりしても別の解答用紙は与えません。ていねいにあつかってください。
 - ③ 解答用紙には、受験番号・氏名・解答など必要なこと以外は書かないでください。
 - ④ 問題用紙や解答用紙に不良のものがあつたり、印刷の不鮮明な部分があつた場合は、だまって手をあげてください。
 - ⑤ その他、特別な用がある場合は、だまって手をあげてください。
 - ⑥ 試験が終わるまで退室してはいけません。
5. 解答用紙だけ回収しますので、問題用紙は持ち帰ってください。

1 次の文章を読み、あとの各問いに答えなさい。

以下は、“マグネティック・テープ・アラート・プロジェクト” (Magnetic Tape Alert Project、以下MTAP) について述べた文章である。なお、MTAPとは、ビデオカメラで撮影し、磁気テープに記録された映像は、2025年までにデジタルファイル化しなければ二度とアクセスできなくなり、一気に失われかねないという、ユネスコが鳴らした警鐘のことである。

MTAPは、ユネスコの“Information for All Programme” (みんなのための情報プログラム) と国際音声・視聴覚アーカイブ協会 (IASA) が2019年7月に開始したプロジェクトである。目的は、①磁気テープに記録された大量の視聴覚資料を損失する危機への認識を広めるとともに、世界の磁気テープコレクションの調査を通して状況改善におけたネットワークを作ることにある。

デッドライン^{*1}を2025年とした根拠は、人気テレビ番組やラジオ番組などの膨大なコレクションを有するオーストラリア国立フィルム&サウンドアーカイブ (NFSA) が、MTAPより早い2015年10月に開始した「Deadline 2025: Collections at Risk (危機に瀕したコレクション)」キャンペーンで明確にしている。それは、動作可能な再生機の維持が、スペアパーツの供給と保守サービスの終了により不可能となるためであり、さらには、経験豊かな技術者の減少、キャリアの経年劣化などから、デジタイズ^{*2}の難度と費用の高騰^{こうとう}が見込まれることにある。留意すべきは、これは組織内にデジタル化設備と技術者を十分有しているNFSAの算出であり、それらを有していない組織や国のデッドラインは前倒しになる可能性が高いという点だ。現存する動作可能な再生機が使えなくなる時期は、現有台数や稼働率、使用法などで異なってくる。

Deadline 2025の目的は、デジタル化予算の確保である。NFSAは、デジタル化が必要なコレクションとしてアナログビデオテープ約45,000時間分、オーディオテープ約12,000時間分、^{ちんぷ}陳腐化したディスクフォーマット30,000時間超、磁気フィルム12,000リールを示し、通常予算では10年間で30%しかデジタル化できず、70%にあたる何万時間分もの視聴覚遺産が確実に失われるという試算を公表した。そして、全てのデジタル化には1,000万ドルが必要であるが、これは、今まで国が放送分野にかけてきた予算とその成果が水泡^きに帰す事態を回避し、国民の文化的記憶をいきいきと甦^{よみがえ}らせるだけでなく、教育的、創作的、商業的

な再利用を促し、多様な価値と何倍もの利益を長期的にもたらす有益な投資である、と募金と予算増を訴え、2020年に550万ドルの追加資金を政府から獲得したのである。

2015年度の調査では、公益社団法人映像文化製作者連盟（以下、映文連）の14社（34社中）、協同組合日本映画製作者協会（以下、日映協）の4社（53社中）の計18社から回答を得、各社がテープ素材や原版を保存・管理していることが明らかになった。映文連会員の回答には、映画以外の原版や受注作品も含まれるが、保管本数は数百本以上が8社、1千本以上が2社、1万本以上が1社あり、②デジタルファイル化の予定あり、と回答したのは5社であった。日映協加盟社の本数は各30本以下であるが、4社全てがファイル化の予定無し、である。

本年8月に、この映文連の14社中、現会員の6社と、日映協加盟社の4社に、メールやオンラインで追跡調査をおこない、映文連の3社と日映協の1社から回答を得た。映文連の2社は、原版の大半が受注作品であり、発注者との相談で、テープの整理（廃棄処分）や、要望のある作品のデジタル化を行っているという。デジタル化の依頼が思ったほど増えない理由には、デッドラインの認識が薄い、費用回収が見込めない、などがあり、費用回収の発想が不要の、社史や校史にかかわる映像は保存目的でデジタル化の依頼があるようだ。

（富田美香「連載 フィルムアーカイブの諸問題 第111回 マグネティック・テープ・アラート&デッドライン2025——膨大なビデオテープ原版映画を失う前に」『NFAJニューズレター』14号（2021年10月）による）

※1 デッドライン……最終期限。しめきり。

※2 デジタイズ……PC上で編集できる形式に動画データ変換を行う作業の事。

問1 下線部①「磁気テープに記録された大量の視聴覚資料を損失する」とありますが、その損失によってどのような問題が生じると考えられますか。損失される資料の具体例を2つ挙げ、その問題点をそれぞれ40字以上50字以内で説明しなさい。

問2 下線部②「デジタルファイル化の予定あり、と回答したのは5社であった」とありますが、たった5社しかいなかったのはなぜだと考えられますか。その理由を2つ挙げて、それぞれ30字以上40字以内で説明しなさい。

問3 デジタルファイル化を進めていくためにできることとして、ふさわしくないものを1つ選び記号で答えなさい。

- ア 多くの人が見たいと思える映像資料以外は廃棄し、全体の作業量を減らす。
- イ 磁気テープを扱える技術者が後進を育成し、デジタルファイル化できる人材を増やす。
- ウ MTAPについてもっと情報を発信し、デッドラインが来ることを知ってもらう。
- エ デジタルファイル化を自動化して誰でも扱えるようにするため、技術開発を行う。

問4 波線部「マグネティック・テープ・アラート・プロジェクト」では、磁気テープ内の映像が技術の進化によって見られなくなる危険性を指摘していますが、同じように技術の進化によって今後使えなくなると思われるものの具体例を1つ挙げ、その理由を簡潔に説明しなさい。

問題は、次のページにも続いています。

2 次の文章を読み、あとの各問いに答えなさい。

磁気テープをデジタル化する動きに関連して、近年公共機関・民間団体問わず積極的に進められている作業がデジタルアーカイブです。

アーカイブの語源は、古代ギリシアで市民を代表し市民を管理するために法を作成していた上級政務執行官(アルコン)の家・住居「アルケイオン」です。そこに行政上の記録文書を収集・保管・活用することによって、前例による政治・行政的な執行を可能とする権力構造を体現していました。

そこから「記録を保存する建物」として、19世紀以来、主として図書形態化されていない文書、とくに議事録や報告書、記録書類などの公式文書を保存する場所・機能を持った文書館のことを意味するようになりました。現在では、図書館や博物館、自治体、企業の資料を保存・活用することも広くアーカイブとされるようになりました。

例えば、図書館では本が「集められ」、集めた本を「管理するための情報が付けられ」、「利用者に提供」されるわけですが、この「集める」「管理情報を付加して保存する」「利用する」というのがアーカイブの概念です。

図書館におけるアーカイブのイメージを図で示すと次のようになります。

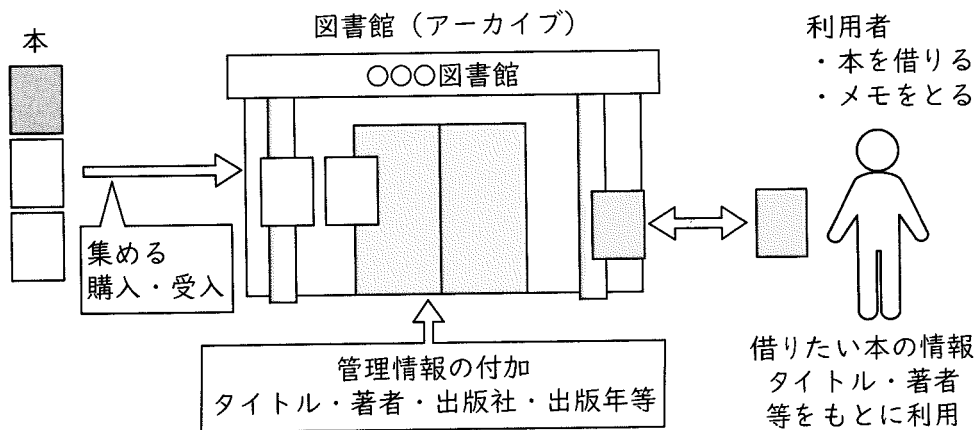


図1-1 図書館におけるアーカイブのイメージ図

では肝心のデジタルアーカイブとはなんなのでしょう？それについては、デジタル化された図書館のイメージを例に説明します。

通常の図書館とは違い、デジタル図書館では収集した本にタイトル・著者名・出版社名・出版年等の管理情報を付加するだけでなく、著作権の問題をクリアした本をスキャナ等で読み取ってデジタル化します。さらに、全文を検索可能なテキストデータ化し、本や著者あるいは出版社等に関連する情報や静止画像・動画も合わせて収集・保存・提供することができます。

その結果、利用者は、本そのものを借りるだけでなく、パソコンやタブレット端末、スマートフォン等の情報端末を用いて本を読むことができます。

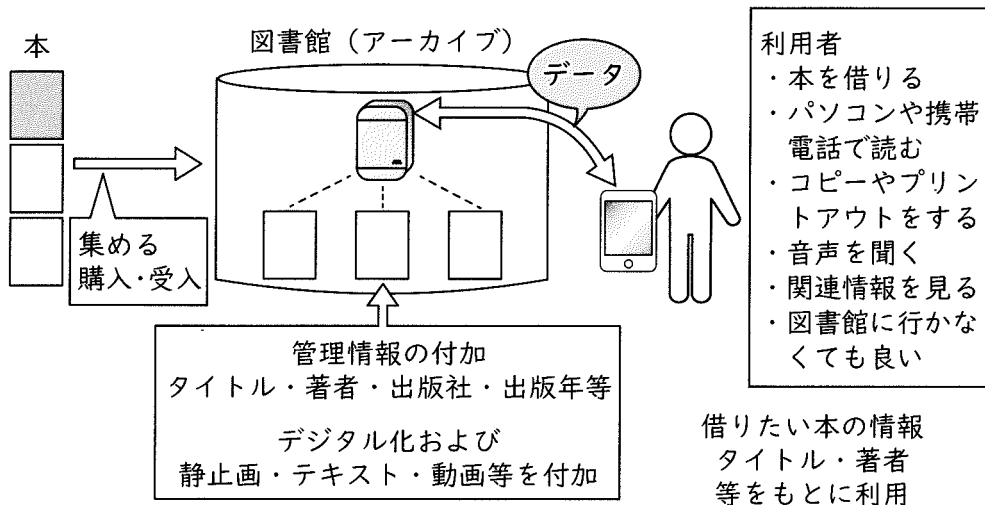


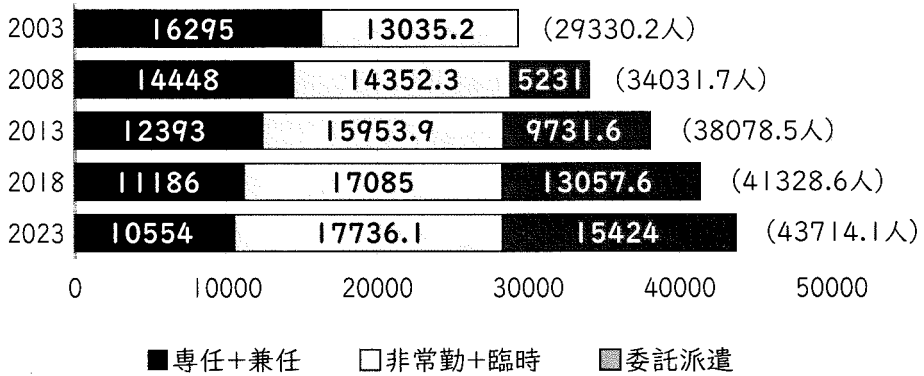
図1-2 デジタル化された図書館のイメージ図

出典：岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所編(2019)『新版 デジタルアーキビスト入門—デジタルアーカイブの基礎』樹村房

問1 次の〈グラフ〉は図書館職員数の推移を示している。〈グラフ〉に関する文A・Bの正誤の組合せとして正しいものを次のア～エから1つ選びなさい。

- A 各年の総職員数における専任+兼任の割合は、減少し続けている。
- B 各年の総職員数における非常勤+臨時の割合は、わずかに増加し続けている。

〈グラフ〉図書館職員数の推移



以下の資料を元に作成

日本図書館協会 図書館調査事業委員会 日本の図書館調査委員会編(2003、2008、2013、2018、2023)『日本の図書館 統計と名簿』日本図書館協会

選択肢	ア	イ	ウ	エ
文A	正	正	誤	誤
文B	正	誤	正	誤

問2 本文の例にあるデジタル図書館が普及すると、どのような利用者にとって利点が生れますか。利用者の状況や立場を具体的に記し、その人にとっての利点を解答欄に合うように50字以内で説明しなさい。

問3 デジタルアーカイブの広がりに関係する次の文章を読み、(1)・(2)に答えなさい。

デジタルアーカイブは公的な資料ばかりでなく、私的な資料にも対象を広げ、さまざまな試みがなされています。例えば、仙台市のNPO法人「20世紀アーカイブ仙台」は市民から寄せられた8ミリフィルムやビデオの映像や写真などを収集・保存しています。それらの映像や写真は、懐かしい思い出を語り合うことで高齢者の認知症予防のリハビリや心理療法に活用されることもあります。また2024年10月、千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館で興味深い試みがなされました。企画展「歴史の未来－過去を伝えるひと・もの・データ」に関連した市民参加型企画として「100年後に残したいもの」を募集したのです。参加者がスマートフォンのアプリで残したい物や風景、出来事などの画像を投稿し、博物館がそれらをデジタルアーカイブ化し、画像の一部については会場で展示しました。

この企画展は過去の出来事がいかに記録されて歴史となり、未来に継承されてきたかを振り返るとともに、これから未来に伝えていきたいことや記録継承のあり方を考える機会を市民に提供してくれました。専門機関だけでなく、私たち市民の側も情報の扱い方についてきちんと学んでいく必要があるでしょう。

(1) 個人で撮影した写真を博物館の展示などに利用する場合、どのようなことに注意すべきか具体的に説明しなさい。

(2) あなたが100年後に残したい画像を投稿するとしたら、何の画像をどのような理由で残しますか。残したいものの名称と、それを100年後に残したいと考えた理由を書きなさい。

